芸術士プラス活動報告

きょうなにする？

目次

P.04　御挨拶

P.06　芸術士プロフィール

P.07　高松市芸術士派遣事業とは

P.09　平成26年度活動報告

P.10　中野保育所

P.11　高室保育園

P.12　坂出一高幼稚園

P.13　高松東幼稚園

P.14　財田保育所

P.15　財田幼稚園

P.16　先生に聞きました！
芸術士活動を通して感じた変化

P.17　平成27年度活動報告

P.18　中野保育所

P.19　高室保育園

P.20　坂出一高幼稚園

P.21　高松東幼稚園

P.22　財田保育所

P.23　財田幼稚園

P.24　先生に聞きました！
印象に残っている子どもの言葉

P.25　平成28年度活動報告

P.26　中野保育所

P.27　高室保育園

P.28　坂出一高幼稚園

P.29　高松東幼稚園

P.30　高松幼稚園

P.31　財田保育所

P.32　財田幼稚園

P.33　四国中央市　川之江保育園　金生保育園　上分保育園

P.34　長尾聖母幼稚園

P.35　沖浜シーズ保育園

P.36　松茂ひまわり保育園

P.37　先生に聞きました！
芸術士活動ってどんなもの？

P.38　これまでの活動

御挨拶

芸術士派遣事業は、北イタリアのレッジョ・エミリア市で始まった戦後の幼児教育プロジェクトを真似て、平成２１年春に高松市に提案し、その秋、共に模索しながら８人の芸術士で始まり、本年８年目２４人の芸術士による活動に成長しました。

美しい瀬戸内の島々がそれぞれ違うように、子どもたち1人ひとりも顔姿以上にそれぞれ違った個性で満ち溢れています。２１世紀「子どもたちの１００の言葉」と題して紹介されたレッジョ・エミリアからの展覧会は、まさしくこの個性と多様性の尊重を幼児教育のお手本として啓蒙した催しでした。子どもの頃に本来備えているはずの素晴らしき個性の芽。しかし、だんだんと教育を受けながら、輝きを失っていくことも、現代の反省です。未来をどう創るか？子どもたちの好奇心にこそヒントは隠されているのかもしれません。

今、民族や文化宗教の問題で起こっている紛争も、違いや多様性への寛容という生き様しか、融和と解決の道は残っていません。それは日本に存在している、多彩な文化を受け入れ独自に昇華してきた極東島国の歴史と智恵のなせる成果だとも言えるでしょう。個性を大切に慈しむ。個々に宝石のような宝物がある。それを大切に見つけ、磨くことが、最も大事で尊いことであろうと、確信しながら、我々はこの事業を進めています。

人は文化や風土の違いに魅了されて、冒険の旅へと船を漕ぎ出して行きました。北イタリアのヒントから、極東日本の四国高松での８年目の実践となり、今後、未来の希望を皆さまと一緒に創造できれば、７０年前に立ち上がったイタリアの先輩に微笑んでいただけると妄想しています。

NPO法人アーキペラゴ　代表理事　三井文博

Archipelago（アーキペラゴ）は多島海・群島（瀬戸内海のような空間）という意味の英語です。

芸術士活動報告に寄せて

平成２５年に、高松市が創造都市推進ビジョンを策定し、現在、ようやくその具体的な成果が散見されるに至っていますが、その４年も前から、この芸術士派遣事業をNPO法人アーキペラゴは高松市に提案し、事業委託を受けていることを見ても、その先見の明に感嘆せざるを得ません。この取り組みは、創造都市推進ビジョンに掲げられている、創造的人材の集積という視点で、芸術士という創造的人材が活躍できる仕事づくりが1点目の目標。そこ（創造都市）で育つ子どもたちに対する将来への投資という視点が、２点目の目標だと聞いています。イタリアのレッジョエミリア地方の幼児に対するアート教育を先進事例として参照したという経緯もあるようですが、そこからは、個性の尊重こそが、荒廃した人の心の復興になるという原点をくみ取っています。

先般、教育の専門家と話をするなかで、同様のキーワードが聞かれました。「個性の尊重」と「自尊感情」という言葉です。教育は大きく変わろうとしています。平成２０年度に文科省が示した改訂指導要領のなかには、「知識・技能の『活用』を通して、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を養う」という趣旨が謳われています。できることを増やしていくということを超えて、それらをどう「活用」するのかということが問われています。それは、正解のない問題を、多様な価値観を持つ他者とともに話し合い、一つの方向性を見出していくという、これからの時代を生き抜くために必要な資質であるに違いありません。

思考することはもちろん、自分の判断のたしかさを確信したり、それを絵や文章または身体などで表現したりするには、根底に「自分が自分であることを認められる」という感覚が必要です。自尊感情につながるものです。正解探しの教育ではなく、知識・技能を活用した課題設定にはじまり、それに対する多様な視点と、それらを他者に伝える技術が求められています。わたしはコピーライターですが、企業からのオーダーは常に唯一解はなく、正解のない問いかけに、思考力・判断力・表現力で応えていく日常です。学校から外に出ると、正解探しでは生きていけない時代です。

自らの思考力、判断力、表現力を放棄し、誰かが作った正解を待ち望むという姿勢は、指示待ち人間を意味し、それではこの先の日本はない、という認識は、もはや多くの人が共感するところではないかと思われます。子どもの個性を重視する芸術士のあり方は、思考力、判断力、表現力のベースとなる自尊感情を育み、たしかな未来への投資になっているものと感じずにはいられません。ますますの発展を祈願しています。

高松市創造都市推進懇談会（U40）

1期2期　会長　　人見 訓嘉

芸術士®プロフィール

合田　知世

専門
インスタレーション・絵画
芸術士在籍期間
平成２５年４月～

長谷川　隆子

専門
インスタレーション
芸術士在籍期間
平成２７年４月～

長野　由美

専門
造形・インスタレーション
芸術士在籍期間
平成２６年９月～

谷　由貴

専門
染織・美術
芸術士在籍期間
平成２１年４月～

松尾　由美

専門
洋画
芸術士在籍期間
平成２５年４月～

すぎやま　あゆみ

専門
洋画
芸術士在籍期間
平成２６年４月～

芸術士とは

芸術士は、それぞれが絵画、彫刻、染織、身体表現、ファッションなど、さまざまな専門分野を持ったアーティストです。彼らは継続して同じ施設に通い、専門知識を活かしてこどもと表現活動を行います。定められたプログラムは存在せず、保育の専門家と協力しながら、素材やテーマから学び、発見し、こどもたちの発想と想像力を最大限に引き出す環境を作るのです。アーティストならではの視点でこどもの可能性を見出すことも芸術士の役割です。『『評価される』表現を『学ばせる』」のではなく、一緒に表現を楽しみ「あなたの絵が、色が好き」と、こども自身と表現をまるごと受け入れることで、こどもは一枚の紙に堂々と自分の責任で何かを描きあげる強さと、自分の個性や考えを表現する力を身に着けていきます。

結果を求めません

子どもの関心はめまぐるしく移行していきます。絵本を読んでいる途中で、踊り出したり、描いていた絵を突然ハサミで切り刻んだり。大人の求める結果が、子どもたちにとっての正解とは限りません。芸術士は、結果ではなく、過程を大切にします。

子どもたちのサポーターです

子どもたちは何かを発見したり、感動したりしたとき、それらを他者に伝えたいという気持ちに溢れます。芸術士は、子どもたちそれぞれの個性を尊重し、自らが考え、工夫し、伝える力を引き出すサポートをします。

子どもたちと社会を繋ぎます

芸術士は、子どもたちとの活動のドキュメント（記録）を制作します。ドキュメントとは単なる子どもたちの活動の記録ではなく、子どもたちの社会の中での存在価値を示し、子どもたちが創る未来の社会を垣間見せるものです。

こどもたちのこころとちからを大切にします

こどもはひとりひとりが独自の世界を持ち、外の世界とつながりたいという思いを持っています。だからこそ芸術士はこどもの自由な発想や発見と感動、それを伝えたいという気持ちを尊重します。こどもが自らの力で、自らが考えた方法で思いを表すことを大切にします。疑問を持ったとき、自ら答えを探し求められる「探究心」。大人の常識にしばられない、こどもだけが持つ豊かで自由な「想像力」。自分の思い・気持ちをさまざまな手段で表現できる「創造力」。表現の経験を通して、これらのこころとちから、自立心や物事に柔軟に対応できる多様性は育ちます。こどもが自分の可能性を花開かせ、それを喜びとともに発信し、外の世界と交流していく。アートを媒体にした体験で、未来の社会を担うこどもたちを育みます。

アーキペラゴは、高松に拠点を置く非営利活動法人です。たくさんの個性ある島をこどもたちに例え、芸術士と呼ばれる芸術家を保育所・幼稚園に継続的に派遣し、こどもたちの表現をサポートする活動を行っています。ひとつひとつの個性を尊重し大切に育むこの活動は、近年注目を集めている北イタリアの「レッジョエミリア・アプローチ」という幼児教育に着想を得てスタートしました。
高松市芸術士派遣受託の他、アーキペラゴ自主事業として現在１１施設の受託外施設と直接契約を結び、高松市、坂出市、観音寺市、三豊市、四国中央市、徳島市の私・公立保育園・幼稚園へと活動が広がっています。（平成２８年度）

芸術士の活動の時間には、こどもたちひとりひとりを認め、伸び伸びと自由で楽しい活動を展開しています。
幼い頃にアートに触れることの重要性が認められ、すべての保育所・幼稚園に「芸術士」が配属されることが私たちの理想とする未来の姿です。

Archipelago

キラキラをつかまえる

財田保育所

長谷川 隆子 芸術士

まるでブルーマンのよう

財田幼稚園

長谷川 隆子 芸術士

うわぁ 水の音が聞こえる！

中野保育所

松尾由美芸術士

しゃてき

坂出一高幼稚園

谷 由貴 芸術士

うし、せいさくちゅう

高室保育園

合田知世 芸術士

ふたごのおばけちゃん

高松東幼稚園

谷 由貴 芸術士

平成２６年度活動報告

中野保育所

高室保育園

坂出一高幼稚園

高松東幼稚園

財田保育所

財田幼稚園

先生に聞きました！　芸術士活動を通して感じた変化

中野（なかの）保育所

３７０４色のこども便り

松尾（まつおぴんちゃん） 由美 芸術士

自分が作った人形との初対面を楽しみ、お片付け中。

「あっ、松尾せんせ・・・ピンちゃん！来て来て来て来て～」
「こっち、こっち」
「血が出よんや。B君、僕の頭にぶつかって…。口から～前の歯みたい。」
私はティッシュティッシュと言いながら前歯を押さえます。まわりのみんなも心配そうです。
そして彼も
「僕が前をみよらんかったから…ぶつかったん。頭と。歯があたったん。痛とうなかったんかな？」

２人とも痛いはずなのにお互いを心配するやさしさと、みんなのまなざし。

次の週、いつもと違う朝に遭いました。
「ぴーのすけが死んでしもた。」
「お墓したけんこっちこっち。」
さみしそうな片隅。こんもりした土を眺め
「葉っぱあげよんや。さみしいかもしれん・・・」
「天国行けるように。もぅ、あえんけん」
彼を思いながら作品作り。ぴーのすけは私にとっても大事なお友達でした。みんなの顔にくちばしが付きます。

お墓にかざって、彼を思いました。
「これでさみしくないね」
やさしいおもいがあふれ出そう…。

高室(たかむろ)保育園

それぞれの夢中

合田(ごうだ) 知世(ともよ) 芸術士

活動２年目の高室保育園。
暖かい色の、やさしい場所です。

「みてみて、粘土に草生やしたよ！」
「これはね、唐揚げ！」「お弁当つくったよ」
「イチゴのケーキね」「一緒に、泥だんご作ろう？」

夏の土粘土遊びのじかん。

一つの粘土に子どもたちが入れ代わり立ち代りして、“大きな塊”が“１億円のケーキ”となり“家”最後には“椅子”になった土粘土があれば、どろんこになって歌を歌う子がいる。水を入れて練り続け子もいる。

恐竜を作った子たち。お片づけでは
「恐竜さん、しんじゃう？」
と悲しそうな顔。冬眠するんだよ、箱に入れてあげよう。
とっても真剣な顔で、恐竜さんにバイバイ。

活動の時間は、それぞれの夢中でいっぱいです。

夢中で自分のおもしろいをやり続けてみよう。

その“おもしろい”はいつか、自分はもちろん、まわりも楽しくさせる何かになるかもしれない。
今は“夢中になれる時間”をたくさんプレゼントできたらいいなと思っています。

坂出一高幼稚園（さかいで　いち　こう）

影響しあう姿

谷（たに）　由貴（ゆき）　芸術士

1ヵ月に1度の芸術士活動。当初は短時間の関わりの中で芸術士として何が出来るだろう…と不安の中スタート、早2年半が過ぎた。

毎回4歳児、5歳児各2クラス約65人が1時間半～2時間ずつホールに集まっての制作。クラスの壁面や作品展用のパーツになる作品作りに携わることが子どもたちとのコミュニケーションの場になっている。

60人も居ると時間内に一人ひとりと交わせる言葉もわずかなので自信の無い子にどう関わるかが当初の悩みだった。

そこで「イイなぁと思う子の真似をしてごらん」と声掛けし、ちょっと描いたところで褒めることにした。

真似される子は最初あまり良く思っていなかったようだが「素敵やから真似されるんだよ」というと満足して、そこからはお互いの絵を見ながら会話し、影響し合ってどんどん子どもの世界観が反映された素敵な絵が生まれてくるようになった。
子どもたちのイキイキした個性を自由に発揮させる場づくり、自信をもってもらう為の声掛け、調和させる為の素材選びが芸術士の役割だとこの園で学んだ。

高松東幼稚園（たかまつひがし）

訪園の楽しみ

谷 由貴（たにゆき） 芸術士

高松東幼稚園１年間で２４回の訪園…

２年目の園、園児数が多いのでクラスを廻って各子どもたちとの活動は年２回。

朝の広い園庭には子どもたちののびのび遊ぶ姿がそこここに溢れている。

高松大学、高松短期大学の学生さん達の実習園ということもあり、子どもたちたちは色々な大人を内に招き入れることに長けている。

朝、門を入ると一緒に活動経験のある年長や年中の積極的な子は駆け寄ってきて

「おはよ！今日はどこのクラスに入るん？何するん？今度はいつ来るん？」

の質問攻め。目が合うと遠くではにかみながら手を振ってくれる子。勢い良く走りながら通り過ぎる時「おはよ！」って声かけてくれる子など…。

まだ関われてない年少、未満児さんは声を掛けるとパッ！と私を観て

「何する人？」

クラスに入って再び会うと

「泥団子しよったん覚えとん？」

制作準備の間に制作経験のあるクラスを廻るとあちこちから壁面の自分が描いた作品を指差して

「みて！みて！」「今日はどこのクラス？」

子どもたちはそれぞれにその子なりの他人の受け入れ方があり、小さな頃に環境として色々な人に接していると自分と相手の距離感を探ること無く自然に他人を受け入れることを身につけていくのだな…と思う。

立ち位置を子どもたちに与えられての心地良さ。訪園が楽しみ！な高松東幼稚園の芸術士活動になってきた。

財田保育所

無限大な子どもたち！！

長野 由美 芸術士

財田保育所の子たちはとにかく元気！！初めて会った時から、目を輝かせニコニコ顔で保育室に入ってきます。

財田町の文化祭の作品に向けての活動をしたときのこと。どのような方向で進めていくかを考え、大画面作品に取り組むことで、作る喜びや感動を感じて欲しいと思いました。

テーマは「よるのもり」！！さくら組さんの最近の興味は虫と言う事で、夜の虫は何してるんだろう？ということから作品を作りはじめました。世界にたった1匹しかいない虫を作り、虫の名前や好きなものを後で発表しました。

さまざまな形のダンボールからイメージして形をつくり、キラキラテープ、丸シール、毛糸などで装飾しました。ある程度の大きさが必要との事で、思い描いた大きさほどのダンボールを提供したしたところ、それをつなげてつなげて・・・

３mの虫を作った子もいました。なんて大胆！！「こうきたか～～」と子どもたちの自由な発想に驚かされっぱなしでした。虫の後は、葉っぱ作りやよるのもり作り・・・大画面を作りきった時は子どもたちから自然に拍手が起こっていました。

最後にみんなで作品レイアウトもしました。文化祭で出来上がった作品を見て、この活動がこんな風に出来上がったんだと思ってくれたら・・・と思っています。子どものやる事なす事、子どもの言葉はほんとに面白い・・・。

その子どもたちの豊かな発想を大切に育てるお手伝いが出来る喜びを感じています。

財田幼稚園

感じて 考えて 行動する子どもたち

長野 由美 芸術士

とても人懐っこく初めて見る私に「こんにちは～何しに来たん？」お遊戯室で準備しているといろんなクラスからとっかえひっかえ子どもたちがやってきます。

ことり組３歳児。「ハロウィン」をテーマにおばけちゃん、カボチャ、変装した自分を作りました。メインの変装した自分作りでは、顔を紙粘土で作り、３歳児ならではの個性的なお顔が勢ぞろい！！感動したのはカボチャのベース作りで模造紙をつなげようとした時、前の時間の要領を覚えていて子どもたちだけで、役割分担して模造紙をつなげ大きい画面を作ってしまったのです。これは園の先生もビックリ！

うさぎ組４歳児。１回目は新聞紙で遊ぶをテーマにお遊戯室に紐を張り、そこに細長く切った新聞紙を長くつなげていく活動をしました。つなげていくごとに新聞紙がジャングル？くもの巣？の様になる様に子どもたちは大興奮！！床にも広がり部屋いっぱいに新聞紙ワールドが広がりました。ジャングルで遊んだ後は、ビニール袋に遊んだ新聞紙を入れてへんてこ動物作りをしました。

自分が作るへんてこ動物に酔いしれながら楽しそう。２回目ダンボールで遊ぶ活動では各場所で創造物が生まれだします。トンネル、トラック、お化け屋敷、たこやき屋さん、お風呂屋さん・・・朝、昼同じ活動を飽きずに変化させながら延々と遊び続けていました。

「先生～～楽しい～～」そう言ってくれる子どもたち・・・

私も楽しくなってきます。

この先生は楽しいを運んできてくれると思われるそんな芸術士でいたいと思っています。

先生に聞きました！

芸術士活動を通して 感じた変化

生活の中の出来事で…絵本を見て…子どもが作りたいと思うもの…等を…子どもたちの心の中にポッとひらめいた自由な発想が指定者のアイデア（今まで使ったことのない素材で、手法で、展示方法で…）と合体することで、いつの間にか味わい深い作品に仕上っていく。子どもたちは、自分の思っているものが目の前に形となって作りだされその工程にワクワクしているようです。私達職員も毎回勉強になります ありがとうございます。

中野保育所

子どもたちは、のびのびと自分の思いを表現することを認めてもらうことで絵画・制作の活動が好きになり、積極よく取り組むようになってきた。職員は芸術士活動の中でたくさんのアイディアを学んだり、新しい素材について教えていただいたり、素材・材料の使い方を教えていただき絵画・制作活動の幅が広がってきた。

坂出一高幼稚園

☆子どもたち
- 自信を持って伸び伸びと思い切り描くことを楽しむ子が多くなった。
- これまでに比べて、クレヨン等でしっかり色を塗り込むようになってきている。

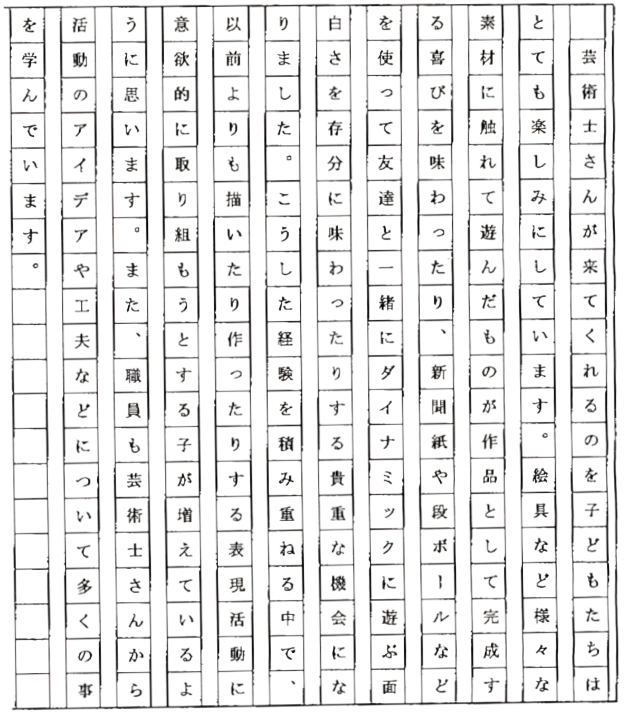
☆先生たち
- 造形活動の際に、配色等について これまで以上に深く考えるようになった。
- 子どもたちと一緒に活動を楽しもう。そしてより良いものにしていこう という意識が高まってきている。

☆保護者の方々
- 作品の素晴らしさを感じるだけでなく、大勢で手掛けた大きな作品を見て「どのように作っていったのか」「我が子がどのように参加したのか」等と、その過程にしっかり関心を持っていただけるようになってきた。

高松東幼稚園

- 昨年度に引き続いての芸術士派遣事業ですが、今年度は、前半絵画を中心とした取り組みをすることで、全紙の絵画でのローラー・太筆の使い方等の方法のヒントをいただき良かった。
- 3歳児ならではの作品として、共同製作を中心としたことで、子ども達は一緒に作品を作っていく楽しさを感じていた。
- 後半は、個人イメージした作品を製作したことで、想像力が豊かになってきた。
- 今後は、廃材を集めたり、色々な物を利用しての作品や絵画に取り組んでいきたい。
- 今年度は、地域の人に公開してきたことで、子ども達の様子や継続して取り組んでいくことの大切さを伝えていくことが必要であると思った。
- 芸術士派遣事業は、子どもの年齢も低く、芸術の楽しさや意欲・想像力等高めていきたい大切な根っこの部分の時期である。派遣される芸術士によって取り組み方や関わり方に違いがあり、保育所とアーキペラゴさんとの事前の話し合いや打ち合わせが大切だと感じた。

財田保育所


芸術士さんが来てくれるのを子どもたちは とても楽しみにしています。絵具など様々な素材に触れて遊んだものが作品として完成する喜びを味わったり、新聞紙や段ボールなど白さを存分に味わったりすることを経験を積み重ねる中で、こうした貴重な機会になりました。以前よりも描いたり作ったりする表現活動に意欲的に取り組もうとする子が増えているように思います。また、職員も芸術士さんから活動のアイデアや工夫などについて多くの事を学んでいます。

財田幼稚園

いろいろな色、形、感触、芸術士さんが用意してくれたたくさんの素材を前にワクワク、ドキドキ。さてどうしようかとしばらく手に取り眺めている子、即座に切ったり、貼ったりと行動を起こす子。子どもそれぞれ取り組み方、進め方は様々ですが自分のやりたいやり方で自由に活動を楽しんでいます。

その日の帰りに掲示されるドキュメントは子どもの真剣な顔、うれしそうな顔など表情が生き生きと映し出されており、それを見ながら「こんなんしたん」「たのしそうやな」と親子のうれしそうな会話が聞かれます。

高室保育園

平成２７年度活動報告

中野保育所

高室保育園

坂出一高幼稚園

高松東幼稚園

財田保育所

財田幼稚園

先生に聞きました！　印象に残っている子どもの言葉

中野保育所

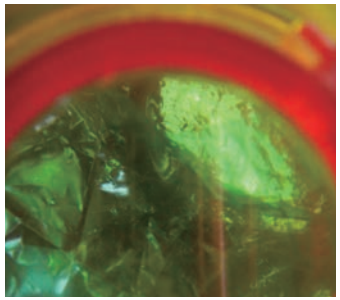
どろどろからうまれること

松尾 由美 芸術士

「きょうなんするん？」「どこいくん？」「僕んとこいつくるん？」「何もってきたん？」「今日どこでたべるん？」
近寄ってきてダダダダダダとおしゃべりが始まります。
今日の予定を伝えると、ためいきまじりの「ふぅん…。」
やっと順番が回って来た今日は
お庭いっぱいで、どろんこ遊びです。
ブルーシートを頭からかぶり雨雨ごっこ
「雨の音が耳の横で聞こえるわーーー」
こんなにも楽しい園で
わたしもみんなと泥・絵具まみれになりながら
思う存分作る。感じる！笑う！

どろどろ活動からは、たまに争い事も勃発します。
ふたりの真ん中にひとりの子がいて言い合いをぼんやり見つめます。「どうするかな？」「どうしようかな…？」
真剣な1対1を仲裁せず見守るしかない時間の流れ。
絶対泣かない子とわんわん泣きながら泥のかけあい。
こんな　いざこざの後のことです。
当の本人たちは
またくっついて、そして笑って「キャっキャっキャ」。
争っているとみていたのは私だけで
子どもたちは真剣にかかわり、引きずりません。
笑うだけで、仲直りには言葉もいらないようです。

そんな忘れがちな人としてのやりとりに心がキュン。
そしてわたしも…お話タイムへ。
いつも表現について一緒に考えています。
「これなにすん？」「どなんしたらえぇ思う？」
「何に見えるかなぁ？」
大きな絵をくるくる回転
「あっ、サメ見つけた！」「イカもおる！」
大きくなっていくこどもたち…関われる今を大切に
こんな何気ないひとときに
いちばん幸せを感じます。



高室保育園（たかむろ）

おおきなかたまり

合田（ごうだ） 知世（ともよ） 芸術士

３年目となる、高室保育園の土粘土の活動日。
足で踏んだり手でこねたり。自由に遊びが始まります。

おだんご、くまさん、りゅうぐうじょう、ひこうき…

細部まで凝ったものや、ドン！と大きさ１番のもの。
さまざまに展開されていきます。
土粘土の活動も回を重ねてきたので、新たな楽しみにと、
針金で作った骨組みを持って行きました。
まっすぐ立っているものや、動物の骨組みです。

「うわ〜、ぷろぺらみたいや！」「ぷろぺら〜」
作っていた飛行機に沿わせて骨組みを曲げ、自分の
作品を補強するツワモノも…。
そんな中、ある子が動物の骨組みを手に取り
「うまにする」と粘土をつけはじめました。
でも、なんだかビミョ〜な顔。馬づくりを終えて
次に彼が作ったものは、大きな塊。そして
「みて、どうじゃ！」と誇らしげな顔。私は思わず
「この馬と自動車、どちらが好き？」と聞きました。
「うーん。…じどうしゃ！」
小さく、でもはっきりと言った彼の言葉からは

「ぼく（のじどうしゃ）って、素敵でしょ？」
という声が聞こえてくるようでした。
他にも、大きな塊を作って
「きょうりゅう」「ケーキ」などと言う子どもたちもいます。
作られた塊は、彼らの分身のように感じました。

改めて、彼らと彼らの作ったものを受け止め、
寄り添う大事さを再確認する日となりました。

しゃてき かんばん

しゃてきイメージ

色あそび

さんまをかんさつ

さんま

さんま

カマキリ

ながぐつ

ながぐつ

ながぐついろいろ

坂出一高幼稚園（さかいでいちこう）

楽しさと自信の波

谷 由貴（たにゆき） 芸術士

子どもの頃、絵に自信が持てなくなり今だにそれがトラウマ…。この活動をしていると、よく耳にする大人の話。

“何で自信が持てなくなったか”に焦点を合わせることで、それと反対のことをすれば、過ごす時間に関係なく子どもと一緒に楽しみながら芸術士活動を続けていけそう！
大きなヒントになっていった。

３歳くらい迄の子どもをみていると、自分がやっていることが最高！自信がない子どもなんていないのがよくわかる。ところが、だんだん他の子と自分を比べて（何を基準にしてか？）勝手に自信喪失する子が出てくるから面白い。

そんな時、ちょっと勇気を出して描いた線や色を褒めてくれる人が身近に居たら…忽ち自信復活！でもまだ少しの不安…。そんな時、自信満々の子に「何描いとんかわからん！」ひとこと言われ手が止まり…。
言った方だって何を基準にして言ってるかなんてよく分かってないのにね…。

絵には正解がないことを時間をかけて伝え、勇気を全力で認め、やっていることをニコニコ眺めていれば、子どもは時間を忘れ自由にのびのび個性を発揮してくれる。

子どもの能力を信じ育むことは、大人が楽しく生きる糧になる。

周囲の大人が楽しんで子どもの個性を見守ることは、子どもたちにとって大きな自信と楽しさをもたらす波になる！

ふしぎなうちゅうじん

ふうせん

２人でそーっと

おばけちゃん

高松東（たかまつひがし）幼稚園

子どもに委ねることの楽しさ

谷（たに） 由貴（ゆき） 芸術士

芸術士として今意識していること…それは子どもたちが本来備え持つ能力をどれだけ信じられるか？ということ。

芸術士をはじめた当初、それまで自分のセンスと経験を信じ作品づくりをしてきた自分にとって、強烈な個性の塊である子どもたちと対峙することは至難の技。今思えば随分子どもたちの個性を無視していたかなぁ…と反省しきり…。

子どもが自由に描いた絵と世間で上手いと言われる写真のように描いた絵を見比べた時、私にとって魅力的に感じられるのは子どもの絵！と自覚した瞬間、芸術士としての立ち位置が変わった。

この園での活動は現在３年目、１人の子どもと制作で共有できる時間は年に３時間程度、３歳児から関わっても３年で９時間、それだけ…。

芸術士としての役割を考え悩んだ結果自身の回答は…子ども１人ひとりの個性を見つめ、１本の線、一つの色から褒めること。

実行していくことで子どもとの信頼関係が生まれ、わずかな時間がとても愛おしくなった。

クラスごとの作品は、そのクラスの子どもたちの個性と成長の表現。子どもたちに委ねることで、どんどん自由度が増し子どもたちの解放感が伝わってくる。

１日違っても同じ作品にはならないであろう…その活きの良さがたまらない！

財田保育所

ちいさな芸術家の物語

長谷川 隆子 芸術士

３歳児の子どもたちにとって絵具や土粘土、芸術士との関わりの全てがはじめての出会い。月に１、２回のペースで「アートの日」として子どもたちはちいさな芸術家になります。

活動に「絵本」を使う事があります。子どもにとって、絵本の世界は身近であり、頭の中のパラレルワールドとつながっているようです。絵本を読むと何倍も何十倍も想像力や表現力が膨らんできます。

●バブルアート

ふーふー　リスのようなほっぺたをふくらませ
子どもたちは　めをまんまるくし
ぶくぶく　ぷくぷく　キラキラ　のあわあわ
くんくん　においをかいでみる
「絵本にでとったぶどうのにおいがするー」
キラキラをそーっと　つかまえてみる
ぷくんとはじけて　しゅわっときえる
ほわぁん　シャボン玉の足跡がのこる
泡にあわをどんどんのせて　虹色の光る山
「ぼーって変な音がした」くすくす笑う
きれいな模様にみーんな　うっとり

●ボディペインティング

絵具の服を　身にまとう
「エイ、ヤー！」 ヒーローに変身
むなもとに♡をかいて　ドレスアップ

現実と幻想の境界線が曖昧だからこそ、どこへでも行けるし、何にでもなれる。ちいさな芸術家の物語をたくさん紡ぎだしていきたいです。

財田幼稚園（さいた）

あそびの名人

長谷川（はせがわ） 隆子（たかこ） 芸術士

財田幼稚園は、静かな山の中にあり、教室から田んぼや畑が見え、いつも心地よい空気が流れています。イノシシが近くまで降りてくる事もあるそう。子どもたちは豊かな自然に恵まれた環境でのびのびと成長しています。

●シャボン玉をつかまえる

紙をもって　シャボン玉を追いかける
気持ちのよい風がヒューーとふいて
シャボン玉がぐわぁんと　空へまいあがる
「つかまえたー！」
まぁるいシャボンの足跡を　みせびらかす
「ええなぁ！」と言って　みんなまた走り出す

●フィンガーペインティング

白い紙はまたたくまに　色であふれかえる
上へ下へ　右へ左へ　全身でかきなぐる
紙におさまらない好奇心は　手から腕、顔にも
手のひらに　筆で絵具を　こちょこちょ
くすぐったいとこぼれる　笑顔

●つちねんど

おおきなおおきな　ねんどのかたまり
「くさー」「たんぽとおんなじにおいする」
みんなの足で　ふみふみ　どすどす
ころころおだんご　ぐりぐりと穴をあける
紙の筒をつなげて　子どもたちは大工さん
イノシシのおうちに　みんなのテント

「壊しては　つくり」「壊しては　つくり」
瞬発力と発想にはおどろきの連続。子どもたちは、
面白い遊び方を　見つけだす名人です。

先生に聞きました！

印象に残っている

子どもの言葉

『 ママ ー 。 』

初めて会う芸術士さんに 緊張気味の一歳児。!
その中には なれ保育の子も居て「ママー、ママー」と大泣き中… あらら、
これからどうなるのか？
芸術士さんが紙粘土を小分けにする。「ママー」が 一瞬止まる。
じっと見つめている。小さな粘土に触らせてもらう。少しだけ「にこっ」でも
我に返って「ママー」
そんな中で粘土が動きだす。丸まったり、ねじられたり…おもしろい。
ここまでくれば、みんな触りたくてうずうず。手にとると楽しくてたまら
ないと踊りながらその喜びを表現する子も。
保育室が熱気をおびてくる。
そして、いつの間にか「ママー」の声が途だえていた。
初めての人、素材、感触 など。一歳児のワクワクは、時に
ママと同じ位魅力的なのだ！

中野保育所

『 なにつくる ー !! 』

芸術士さんが用意してくれた土粘土、数人の女の子が集まって粘土を手に取り、丸めたり伸ばしたり・・・。『おだんごやさんしよう』『ぷっちょやさんは？』『そしたらだんごやさんの隣にアイスクリームやさんで・・・』おしゃべりが止まりません。お友だちとのおしゃべりの中からいろいろな発想が生まれて来るようです。

高室保育園

『 待ってました！ 師匠!! 』

ある朝、子どもたちが自由に遊んでいる時間に部屋の前を通りがかる
谷 由貴 先生を見つけた年長組の男の子が一言。「待ってました！師匠!!」
大興奮で部屋の中に呼び入れ、自分が作った物を次々に見せていく。
「谷先生は面白い描き方とかいっぱい教えてくれるけん 師匠なんよ」
と誇らしげに話す。子どもたちにとっては、私達よりもワンランク上の存在みたいです。
特別な

高松東幼稚園

『 あっ、しっぽが・・・ 』

『森の動物』と題した共同作品を製作中。
うさぎを描いた女の子。切り抜く時に、しっぽを切り取ってしまいました。思わず発した言葉に、芸術士の先生は、
「大丈夫よ。貼ったらくっつく」と…。
落ち込んでいた女の子の表情は、一気に明るくなり、
素敵なうさぎが完成！
何気ないことですが、背中を押してくれる人の存在の
大切さを感じました。

坂出一高幼稚園

『 あなたはビバルゥしさんのひゃう？ 』

今日は、芸術士さんの日やう？
子ども達にとっては 初めての芸術士さんとの活動。「バルーンアート」でしていつもなら 飛んでいく シャボン玉が 机の上に落ちて 不思議な感覚。
魔法のように次々出てくる道具に その都度 目を輝かせ あっという間に時間が過ぎていきました。「泡でいっぱいにしよう！」「きらきらしてきれ～い。」「カニになりたいたい。」「泡のおんや。」「つぶつぶになってきた。」
子ども達の イメージ想像は 無限大！それを引き出していく先生の
豊富な知識とスキルに職員も目をうばわれ、心うばわれる一日です。
「今度いつくるん。」「また来てね。」先生とワクワク体験をとても楽しみにしている子ども達です。

財田保育所 / 財田幼稚園

平成２８年度活動報告

中野保育所

高室保育園

坂出一高幼稚園

高松東幼稚園

高松幼稚園

財田保育所

財田幼稚園

四国中央市　川之江保育園　金生保育園　上分保育園

長尾聖母幼稚園

沖浜シーズ保育園

松茂ひまわり保育園

先生に聞きました！　芸術士活動ってどんなもの？

中野保育所（なかの）

芸術士のげいじゅつって…?

松尾（まつお） 由美（ゆみ） 芸術士

ある朝の事、Iちゃんから質問されました。「ぴんちゃん芸術士なんやろ?芸術士の芸術ってなんなん?」ん〜と考えて答えます。「忍者はしのびの術をつかうやろ、忍術。お医者さんは手術って手を使って術するやん…芸術って芸の術やな。」???、自分でもこれ答えになっとんやろか?と思いながら、ちらっと顔を見ると「あ〜あ、みんなが使える術か。」と明瞭な受け答え!彼女からの助け舟の言葉にのって「それよ、それ!楽しいやうれしい、かなしいとかいろいろあるやろ?それを歌ったり、からだ使って踊ったり、ぴんちゃんみたいに絵描いたりするんをしていくん…。」

私はこの話をいつも脳の片隅に置く事にしました。天才の子どもたち。そのままを表現できるよう術にのせて動きます。ありがたいことに私のペースで子どもたちが今しかできないことを、存分にやらせていただいています。ベールを外しみんなと同じ立場になります。「最高!正直に思ったまま、好きとか好かんとか伝えてね。何か困ったことあったら言いに来てよ。」「ぴんちゃんあのな…好きーとか、さいこーとかは嫌な気持ちにならんからまぁええけど、好かんはあんまり言うたらいかんので。」「そうなん?そりゃ困ったなぁ」。彼らの言葉が哲学的すぎて私は度々タジタジ状態になります。今日はオバケになりました。庭では歓声が絡み合い、白い絵の具で思う存分ベタベタにふれあいます。それは自然に泥遊びへとつながります。芸の術が飛び交い始めました。とっても楽しい子どもたちの片隅で真っ白になった私が気持ち悪くて近づけない彼が見えました。小さく頷くだけがやっとの状態。だけどね…それも術!こんなことの積み重ねが素直な表現へと続きます。“そう、そのまま…で”さぁ感じながら一緒に作ってみよう!描いてみよう!個性豊かな術をずっとずっと使えますように。天才たちよ、どうかその術を大切に…。

高室保育園（たかむろ）

色彩や感触に身を委ねた先へ

合田（ごうだ） 知世（ともよ） 芸術士

“絵の具遊び。色彩の中に飛び込もう。色や感触に心と体の感覚を思いきりひらいて、自分をいっぱいに表現する喜びを味わってもらえるといいな。”

今年で4年目になる、高室保育園の夏の目標です。

心にしっかりと決めて、表現の扉をたたきます！

絵の具は、楽しさや嬉しさ、解放感といった感覚や、絵の具と真剣に向き合い表現する様子など、子どもたちの様々な面を引き出してくれます。紙やビニールの上に筆を使って描いたり、指絵の具というマヨネーズのような触り心地の絵の具で感触を楽しんだり、ボディペインティングでは身体中に塗りたくったり…年齢や体験して欲しいことに合わせて絵の具を使い遊びました。

子どもたちの心と体は本当に素直です。集中してくると、自然に自分で足を踏ん張って描きやすい体勢をとって描き始めます。

「くじら、かくん。おおきいんだぞ～」

「なが～いへび！こっちはちいさなへび！」

紙に描くのに慣れてくると子どもたちの関心は体に向かい始めます。 手に色を着けるのは簡単ですが、全身となると戸惑いの色もみえます。そういう時は「私につけてもいいよ」と自分の体に絵の具をべちゃり。すると「いいの？」と、べちゃり。色の着け合いが始まり、いつの間にか皆絵の具だらけに。「カエルにんげんや～！」

一旦気持ちを解放して遊びに入ると、子どもたちの中に新しい世界が広がっていく様子がみてとれます。その瞬間に寄り添い一緒に過ごせることが、とても幸せです。

私は、自分の解放の仕方を大人にも子どもにも知って欲しいと思っています。自分を解放して表現することは勇気がいりますが、それができた時、自分であることが嬉しい、幸せだといった温かな気持ちに満たされると感じます。

それは自分を尊重する力になり、他も尊重できるようになる、とても素敵な力になると信じています。

坂出一高幼稚園（さかいで　いち　こう）

毎回一堂に会し、取り組み、楽しむこと

谷（たに）　由貴（ゆき） 芸術士

年に９回の活動、本来の４分の１程度の時間で芸術士としての役割りは果たせるだろうか？と思いながら早５年目、こちらの園ならではの活動スタイルも確立されてきた。

毎回５歳児２クラス、４歳児２クラスが各約２時間ずつホールに集い制作、一緒に出来ないところは後で担任が埋めてくれ、今や回数の少なさを感じない程充実した活動になっている。

テーマにそって広い場所で２時間の間に描いて切って貼って描いて塗ることを毎回みんな一緒にやるのが子どもたちの当たり前に。

友だちと相談したり比べあったり、自由な雰囲気の中で回を重ねるごとに、遅い子と速い子の出来あがるスピードが縮まってくるのは、一堂に会し周囲を意識しながら制作するからだろうか？
１人の子どもから派生したブームが場に広がり、その日ならではなのだろう…と思える作品が生まれることも。

のびのびした空気感の中で子どもたちが個性を発揮し制作する姿と、生まれてくる素敵な作品を目の当たりにする度、一人ひとりの成長を感じる。

これからも子どもたちが大人になった時「みんなで一緒にお絵描きした時間がなんだか楽しかったなぁ…」と思い出してもらえるような場を作っていきたい。

高松東幼稚園

子どもの力を信じて
任せてみること

谷 由貴 芸術士

こちらの園での芸術士活動も早４年目。
今年はきく組４歳児５クラスと主に関わることになり、園も私も初めての試みにワクワク。
今のところ毎回２クラス約５０人又は１クラス約２５人が一斉に２時間半ほど個人作品を作るかたちで活動している。
５０人が一堂に会するとさすがに多いなぁと思うが、それでも芸術士として何とかこの園ならではの、子どもたちが自由に制作出来る“場”をつくりたいと目下試行錯誤。
私の思う“場”とは、子どもたちが楽しく個性を発揮出来る環境。

物理的には空間と動線の確保、子どもの数が多いとこれが一番大変！

じっくり取り組んでいる時は子どもたちの間を巡り様子を見守り、困っている子を中心に声掛け。

終盤になるといつも私の周囲は子どもたちの人だかり。どの子も自信たっぷり！我れ先にと出来たものを見せにくる。
出来た作品を褒めつつ、もっと出来そうなところを促し…また描いてくる時が一番の楽しみ！思いがけないその子の底力が観えるから。
大切にしていることは、子どもたちがやりやすいよう環境を整えた後は一人ひとりの力を信じて任せてみること。

彼らに任せる程、面白い個性が溢れ出す！

高松（たかまつ）幼稚園

地球の一部分と触れ合った日

太田（おおた） 絵美子（えみこ） 芸術士
松尾（まつお） 由美（ぴんちゃん） 芸術士

はじめましての子どもたちと、土粘土で触れ合います。「昔むかしの人が使っていたこの粘土。地面をずっとずっと、ずーっと掘っていくと、この粘土が出て来るんだよ。」「へぇー、いっぱい掘るの大変だったやろ？どうやって採ってきたん、こんなにいっぱい！」「すっごい深いから機械じゃないと出てこないかな。昔の人は手で掘っていたみたい。すごいやろー。」そんな会話をしながら、とろとろ粘土の触感に挑戦。みんな、どうするかな？ねずみ色の土粘土、色のない世界…嫌がりもせずピョンピョン飛んで、粘土を踏み始めました。そして手で力を込めてトントントン。６０年以上の歴史があるこの幼稚園に、ぷにぷにの足跡と手形がつきはじめました。慣れてくると何かを作り始めます。器用に動く指先で小さなものも作ります。手作りのお皿にのった料理が出できて、たくさんご馳走になりました。「地球の一部分の味はどうですか？」「いい香りがして食べたくなっちゃいます！」

くんくんくん。においを嗅いで「お日様のにおいと似とる。」「うそぉ～。」「あっ、猫の足の裏のにおいや。」そんな話をしていると、自分の作ったものをお友だちと交換し始めました。個人作品を経て隣のお友だちとの合作です。クネクネ曲がった線路が続いて海に広がります。海の上には船。見ていると、こそこそと話し合いながら各パートを担当しています。駅や道が広がり、それは平面から飛んで出て、空へと続きます。地下もある３６０度の世界。そして、どんどん膨らんで、共同作品へと自然につながっていきました。いろいろなものが遊びに来てブルーシートの上で遭遇した、つくるの集合体。それは不思議な出会いを生みました。今日の思い出に一部分をとって乾燥しています。終わりのない世界を繋ぎながら、子どもたちとのこれからにどんなプロセスがつながっていくかワクワク。かわいい笑顔に包まれて、楽しみは続くのでした。

財田保育所

感触の記憶

長谷川 隆子 芸術士

3歳の子どもたちは、たくさんのはじめてに出会います。緊張してはじめは静かに様子を伺っていましたが、「おもしろい！」のスイッチが入ると、すぐに遊びに取り入れ、友だちと関わりを深めながら楽しんで活動しています。特に「感触」にとても敏感で色々な素材を、手や足、身体全体で確かめています。

■大きな海の絵

自分よりも何倍も大きな紙の上を、腕をいっぱいのばして筆を動かし、行ったり来たり。カサカサする紙や、絵具を塗ったツルツルの触り心地。筆で足をこちょこちょするとくすぐったい、そんな感触。

■ボディペインティング

好きな色を選んで、友だちと握手すると色が混ざって素敵な色になることを発見！「緑になった！」「ピンクになった！」それからむにゅって、なって気持ち良くておもしろいことも発見。ひたすらねちゃねちゃ、どこから手で、どこから絵具かわからなくなるくらい、どろっどろに溶け合います。

■土粘土

大きな粘土のかたまりを足でふみふみ踏みしめ、土の島渡り。「落ちたらワニに食べられちゃう～」と、つるっと冷たい感触は、手よりも足が気持ちいいらしい。まるめたまん丸い粘土を膝から滑らせてみたり、おにぎりを作ったり、「みてみて！ぱっかーん」と誇らしげに小さな世界を見せてくれます。

子どもたちは「作る」ことを通じて、カタチには残らない「感触」の記憶を重ねます。混ぜた色のかたまりであったり、粘土から生まれる形など、刻々と変化し保存できない表現をしています。私は、そんな表現を大切に見守っていきたいです。

財田幼稚園

「迷路にしよや！」

長谷川 隆子 芸術士

財田幼稚園は財田保育所とつながっており、年中児のほとんどが保育所からのお付き合い。年長児も２年目なので、私が道具を準備していると「きょうなにするん？」と近寄ってきてお手伝いします。年少児は、女の子５人なので、一人ひとりと隣に座ってミシンを使い人形を作りました。「ママもぬってくれるんで」照れた笑顔で教えてくれました。月に１度程度の限られた時間の中、少しでも子どもたちの声を拾って活動に広げることができるようにしていきたいという目標を持ちました。

「ここからどうしたらええと思う？」と聞いてみました。

透明の大きなシートにお絵描きした時のこと。ゴロンと横になった子どもたちの上でバサバサ上下に動かすと、きゃーきゃー「海みたい～」「涼しくて気持ちいい～」そのあとは、思い思いに感じた絵を描いて楽しみました。「次はな～、迷路にしよや！」みんなからのはじめての提案でした。やりたい！の気持ちが揃って、１本ずつ線を繋いでいき、大きな迷路の模様が出来ました。

「何つくりたい？」と聞いてみました。
土粘土の時のこと。足で踏んで感触を確かめたり、お面を作ったり、動物など、いろいろなものを作りました。片付けを兼ねて、みんなで大きなものを作ることにしました。「恐竜作りたい！」小さな粘土のかたまりを寄せ集め、一緒に頭をつけました。「歯つけたい」「しっぽもいるで～」と集まってきて大きな土の恐竜が生まれました。給食の時に「恐竜もう土に戻ったんよ」と、いうとがっかりするかなと心配していましたが、「次はな～」と、ワクワクして次の計画を話してくれました。

作ることはさらに創造力を掻き立てます。
みんなで考えると新しいことが生まれます。

四国中央市
川之江保育園
金生保育園
上分保育園

「また来てな！」

長谷川　隆子 芸術士

今年度から私の故郷でもある愛媛県四国中央市で芸術士派遣がスタートしました。3年間で市内公立保育園を全て回っていくというスタイルです。園の先生方も「芸術士」という名を聞くのは、はじめて。どんなことをするのか、とても楽しみにしていました。1日限りの芸術士デーは、ちょっとだけ特別な遊びの日。

■あわあわぶくぶく

子どもたちの大好きなシャボン玉。消えてなくならない泡に驚きと好奇心がウズウズ。「みよって、みよって。」そう言うとフーフー吹いて大きな泡の山のお城をつくったり、高さ競争が始まったり。

■カメレオンに変身

勢いよく絵の具をすくっては、ぺちゃーっと紙や体につけ、友だち同士で塗り合いっこ。きゃーきゃーと笑い声が園庭に心地よく響きます。大胆になればなるほど心も体も軽くなり、いつしか先生方も絵の具まみれで子どもたちと一緒に踊っています。

■足で感じる土

はじめての土粘土。大きな粘土は、とても重たくて気合いが入ります。足で踏んでみると「わぁ〜、つめたい。」気持ちよくて、何度も歩いて渡ります。手でこねたり、ちぎったり、どんどん形が変わる粘土は、子どもたちにとって最高の遊びの素材です。

どの園も先生方がまず率先して楽しもう！と、していたのが印象的でした。「おもっしょかったー！」「また来てな！」と、ぎゅーっと抱きついてきてくれる可愛い子どもたちの想いを実現したいと思いました。四国中央市の子どもたちとの芸術活動が根付いていくことが私の夢です。

長尾聖母幼稚園（ながおせいぼ）

やさしさに包まれた クルミ

松尾（まつお） 由美（ぴんちゃん） 芸術士

私はひそかに、ふるさとの子どもたちとふれあえる事を待ち望んでいました。私のスタート地点で活動するという事はとても感慨深いものがあり、懐かしい家族のもとへ帰ってきた気がします。「ぴんちゃん、久しぶりー！」の声に、思わず「ただいまー」「はい、ぴんちゃん見たがってたやろ？」私の手には、人肌で温かくなったクルミの実が１個ありました。忘れずに覚えていてくれたことに心が熱くなります。

この園にきて、まず最初に目に飛び込んで来たのが、園庭の真ん中にある大きな桜の樹でした。まぶしい光を遮るようにやさしい日影をつくります。やさしさに包まれながら守られている大きな力を感じました。滑り台の向こうに見たことのない樹があります。名札はクルミ「えっ？クルミの樹って…あのクルミがなるん？」実がなっているのをまだ見た事の無い私です。興味津々の私に子どもたちはいろいろな事を聞かせてくれました。私の知らなかった世界を次から次へと教えてくれます。「今度落ちてたら、ぴんちゃんに絶対見せてあげるからね。」そんな会話を覚えてくれていた彼女でした。そしてもっと、おしゃべりに花が咲いて「僕の家、牛がおるんで～。」私は幼少の頃に乳牛に追っかけられて逃げた思い出話をしました。すると「それは、牛が遊ぼういよったんや。」「でも大きいやろ？遊べんわぁ。」「白黒はやさしいで。黒い牛はもっと怖い！」牛の種類、牛乳の事。ダムの話、竹、クルミ。笑顔とともに、子どもたちと私の距離が狭まってくるのを感じながらホールいっぱいに障子紙を広げて色を重ねます。色々な絵の具にシャボン液を仕込み泡。ブク。いい香りがフワフワ。泡が重なると気持ちも交わる様にやさしい色が出来ました。その後この作品は、東北や熊本の被災地へと飛んでいきます。七夕に願いを込めて…そんな、やさしさにいつも包まれている私です。

沖浜（おきのはま）シーズ保育園

ひとりひとりの滲み

すぎやま あゆみ 芸術士

今年度から始まった徳島県での芸術士活動。年長児17名の子どもたちとの関わりが始まりました。芸術士として、園へ通い初めて6ヶ月。園長先生たちと話し合いのもと、絵を描く楽しさや、新しい経験をさせてあげたい。毎月テーマを考え進めています。絵描き、作家としての私のprocessus de création（子どもたちと関わるプロセス）美術の技法を用い、経験した記憶を辿り、表現することの素晴らしさを伝え、新しい出来事や見たことのない素材を与えることで経験へと導くことです。

■卯月、子どもたちが想うハレ・アメというテーマで描いていく。4つ切りの狭い世界ではなくて、うんと広い紙でのびのびと。

■皐月、大判の画用紙を子どもたちと張り合わせ、鶴を折っていく。出来上がったものは子どもたちの大きさくらい。その後おり紙が身近に感じることができ、鶴折りができる子も増えました。

■水無月、紫陽花や鬼灯を持ち込み、葉や花をみんなで触ったり香りを探す。花びらを丁寧に描く子、鉢も描く子、ひとりずつみんな違う絵となり、木炭や、コンテ、墨汁（割り箸ペンなど）を使い、表現しました。

■葉月、異年齢の子どもたちも交えたボディペイントを行う。3原色の絵の具、ローラー、木材など準備し、大きな布は滑り台の様に設置。みんなが着たTシャツはキャンバスに変わり、2歳児は布が踊る様子に心奪われたり、色の楽しみを知りました。3・4歳児はしっかり鏡をみて顔にお化粧を始めているかと思うと足のすねに泥パックの様に塗りたくり混ぜ合わせています。5歳児は「おや？」とても静かです。声をかけてみると、何と何を合わせるとどんな色ができるかを理解し、そして自分の世界に入り、美しい色ができると、きらきらした目で知らせてくれました。これから、美術館へ出かけてみたり、子どもたちとの距離やあんばいをみながら下半期を過ごしていきます。

松茂（まつしげ）ひまわり保育園

自然豊かな環境で

すぎやま あゆみ 芸術士

徳島空港に近い立地の松茂ひまわり保育園。園庭には季節の花々が咲きほこり、戸外遊びでは（晴天時は園庭へ）花びら・種・実集め、土や泥で遊びます。「ちょうちょとか、ハナムグリたくさんくるんだよ。」と話しかけてくれた事が印象に残っています。子どもたちは、自然豊かな環境で過ごしています。

きりん組ぞう組3歳児15名ずつとの関わりが始まりました。芸術士として、園へ通い始めて6ヶ月。

月2回、じっくりと活動をしています。

絵描き、作家としての私のprocessus de création（子どもたちと関わるプロセス）美術の技法を用い、経験した記憶を辿り、表現することの素晴らしさを伝え、見た事のない素材や新しい出来事を伝えて経験へと導くことです。

園長先生を始め、主任の先生、3歳児の担任の先生と必ず活動を振り返り、話し合いの場を重ねています。少しずつ手探りではありますが、それが子どもたちにとって何か“もの”を残すのではなく、経験できるより良い環境に繋がっているように実感しています。

最初の導入は、布を樹に結び絵の具を用いて園庭にある植物や花々の色探しをしました。ある日は、みんなが大好きなダンゴ虫。蛇腹に工夫した新聞紙を使い丸めて包み、目を付けたり、毛糸や残糸で足を表現。子どもたちは作ったあと大切に抱え、午睡の時間、ダンゴ虫に布団をかけていました。そして、耳を澄ませてみる活動。アコーディオン・ヴァイオリン・鳥笛・カリンバ、色んな音のなるモノ等を持ち込みました。現在流木に穴を施し手作り楽器を作っています。みんなの波長が合うと、ひまわりチンドン屋が始まり、子どもたちのお気に入りです。

進行中のプロセスは、想像する→過程を考える→材料集め（先生方と、流木を海に拾いに行きました。）→試作→実験→子どもたちに適応させる→調節する、案を練る→楽器で遊んでみる、演奏→何度もこのプロセスを重ねています。

先生に聞きました！

芸術士活動って どんなもの？

『 これでいいのだ 』

ブロックを組み立てるのが得意な、笑顔のステキな3歳児 H君。
芸術士の松尾先生の、「みんな！大きな紙に好きな様に色をつけていこう。」の声に、
「む、む、むっ‥」　どうしていいかわからない。
笑い声と、全身オレンジ色の子どもたちが増える中。
動いた！！　一本指て、紙の端に薄くオレンジの点が！
スローモーションのように点が増える。
「うわー、ええわぁー。」大きな声。
顔を上げたその子に、松尾先生の嬉しそうな目が映る。　「これでいいのだ！」

中野保育所

『 なんだかステキに見えてきた！ 』

目新しい素材はもちろん、普段使っている素材でも芸術士さんと一緒に使うとなんだかステキな作品に仕上がってくる。素材の選び方、使い方のセンスを私たち保育士も学ばせてもらっています。

高室保育園

『 世界が広がる 』

絵を描きたがらず、虫を持って部屋に入ってきた男児に、先生は「虫を見てもいいよ」と声をかけ、男児の興味が皆に向き始めたタイミングで「一緒に描いてみよー」「何描こうか？」と声をかけた。そして、男児が自分で描けそうな様子を感じると、その様子を見守り始めた。こうやって、自ら描く楽しさを味わうようになるのかと、子どもも保育者も世界が広がっていくのを実感した。

坂出一高幼稚園

『 心を開放して表現することを楽しむ時間 』

描く事に少し苦手意識を持っていた　こうちゃん(満3歳児)。谷先生との初めての活動の時に「この線、いいやん」「しっかり描けてるよ」「かっこよくなってきた」と認めてもらえた事で、最後にはすっかり笑顔に。決して大袈裟ではない、心からの言葉に自信を持ったようでした。

年少組に進級した今でも、こうちゃんは谷先生との楽しい時間を満喫しています。

高松東幼稚園

『 夢中になれた瞬間 』

まだ体験したことのない素材（土粘土）で行った芸術士さんとの活動は子どもにとって、全く新しい世界でした。

芸術士さんの声かけに子どもたちは、どんどん物作りに引き込まれ、自分の世界を作りあげていきました。

さらに、友だち同士の関わりへと広がり、その時間と場所が子どもたちの世界になりました。我を忘れ、時間を忘れて夢中になれた一時でした。

高松幼稚園

『 発見!! 』

見たことのない たっぷりの量の粘土を前に、子どもたちは ワクワク!!
足で踏むと、『わっ！ きもちいい！』
いつものように パンを作ったり、お団子を作ったり 長いへびにしても
まだまだ たくさんあるよ‥‥
そして、粘土をかたまりにして島渡り。 足の裏の冷たい感触を楽しみながら踏んでいくと形を変えていく粘土の島渡りに何度も挑戦!!
全身を使って遊ぶ子どもたちは、時間を忘れ 五感で楽しみ、
粘土あそびの新しい発見をしました。

四国中央市　上分保育園

『ダイナミックに、自由な表現を楽しむ！！！』

魅力的な教材で子どもたちの気持ちが引きつけられ、自由な表現を楽しむことができました。また、普段はなかなかできないような大きな作品に取り組み、ダイナミックにあそぶ中で、友達との会話が増え、一緒に作品を作る楽しさも感じることができたと思います。

シャボン玉の偶然できる模様だけでなく、泡の重なりを発見し次々に泡を重ねる姿に、本当に楽しんでいる姿を見ることができました。どれも正解という安心と楽しさに、子どもたちはやる気を十分発揮し、どの子も満足感を味わうことができたと思います。

『みんなで作る、楽しい活動！！』

普段、絵を描いている紙よりも、はるかに大きく長い紙に、いろいろな色のシャボン玉を吹いて模様を作っていくという初めての経験に目を光らせる子どもたちでした。「見て！雲みたい。」「こっちはきれいな色。」「こっちも」と、言葉を交わしながら大きな作品をみんなで作りました。偶然できた模様と綺麗な色が重なった作品を部屋に飾ると、歓声が上がり、とても喜んで眺めていました。

四国中央市　川之江保育園

『心も体も弾む、色彩豊かな世界を作り出す魔法』
～ボディペインティング編～

いろいろな色に変化する「カメレオンはゆく」の絵本の世界に引き込まれ、いつの間にかに心も体もダイナミックに解放され、カラフル色に染まっていく子どもたち。

気が付けば、どの子も、みんな躍動感に満ち溢れ、きらきら笑顔で輝いていました。それはまるで、心も体も弾む色彩豊かな世界でした。

四国中央市　金生保育園

『 新しい出会い・新しい発見 』

子ども達が大好きな芸術士さんとの時間は、とにかく毎回が新鮮で、初めての活動や初めての素材との出会いにどの子も目が輝いています。新しいことには慎重になりがちなところを ダイナミックな活動や芸術士の先生が専門性の高い知識、技術を惜しみなくリードしてくれることで、心も体も開放感を味わいながら楽しんでいると感じています。私たち保育者も技術的な面を学ぶことが多く、子ども達とともに良い刺激をもらいながら楽しんでいます。
KUCCA先生、いつもありがとうございます！

財田保育所、財田幼稚園

『 あ～おもっしょかった!! 』

「これ、なに－？」「どうなるん－？」「うわ～！きれい」「おもっしょい、おもっしょい」内容、素材、大きさなど、幼稚園で体験したことのないことができるので、子どもも先生も、わくわくドキドキ、発見の連続です。

年少児から年長児まで、誰一人「できん」「したくない」と言いません。年少児は勢いよくのびのび手を動かす、まさに芸術家。

みんなが「あ～おもっしょかった!!」と思える1日です。

長尾聖母幼稚園

『 子ども → せいさく・イロ・えをかく。 保育士 → 表現。 』

元々、製作や絵を描くことが好きだったクラスですが、どのように表現させたらよいのかと迷っていた中での芸術士活動のお話を頂きました。毎月その季節のものやいろいろと違った形での活動をしていくにつれて子どもたちそれぞれの表現が浮きぼりになっていき、保育現場でも参考にさせて頂いてます。

沖浜シーズ保育園

『 触ってみたいな!!がたくさんの1日!! 』

今年度、初めて芸術士の先生をお迎えしてはじまったアトリエひまわり。月2回という少ない時間のなかでも、触れたことのない色々な楽器を実際手にすることができたり、自然豊かな園庭で育っている子どもたちだからこそと流木を使っての鳥笛作り、手作り楽器などで自然と始まる"ひまわりちんどん屋"などそこには子どもたちの笑顔であふれています。あゆみ先生は普段とは少し違う"ワクワク"に出会わせてくれる素敵な存在です!!

松茂ひまわり保育園

芸術士プラス活動報告

きょうなにするん

発行日　平成２８年１２月２３日
発行所　NPO法人アーキペラゴ
〒760-0051 香川県高松市南新町４番地９-２Ｆ
ＴＥＬ　087-813-1001
ＦＡＸ　087-813-1002
http://geijyutsushi.archipelago.or.jp/
制作　芸術士
編集　太田絵美子、岩佐百合子、佐々木あずさ、
松家若奈、松岡美江、モーリエール瞳

本書記載の写真・文章等の無断使用を禁じます。

参加芸術士

合田知世（インスタレーション・絵画）

長谷川隆子（インスタレーション）

長野由美（造形・インスタレーション）

松尾由美（洋画）

谷　由貴（染織・美術）

すぎやま あゆみ（洋画）

参加施設

中野保育所

高室保育園

坂出一高幼稚園

高松東幼稚園

高松幼稚園

財田保育所

財田幼稚園

四国中央市　川之江保育園　金生保育園　上分保育園

長尾聖母幼稚園

沖浜シーズ保育園

松茂ひまわり保育園

これまでの活動

平成21年11月	高松市内保育所への派遣がスタート
平成22年 7月	うみあかりプロジェクト/瀬戸内国際芸術祭2010
平成22年 8月	第1回芸術士派遣事業活動報告「芸術士のいる保育所」展/高松市美術館
平成23年 7月	高松琴平電気鉄道㈱100周年記念企画「コトデン×コドモテン」
平成24年 3月	第2回芸術士派遣事業活動報告「芸術士のいる保育所」展/高松市美術館
平成24年 4月	派遣先が保育所・こども園・幼稚園へと広がる。
平成24年 9月	リサイクルアートプロジェクト/高松市環境保全推進課
平成24年10月	アーキペラゴ活動報告巡回展/庵治観光交流館、三豊市財田町公民館
平成24年11月	講演会/三重県津市
平成25年 3月	講演会/京都造形大学こども芸術学科
平成25年 3月	第3回芸術士派遣事業活動報告「芸術士とこどもたち」展/サンポートコミュニケーションプラザ
平成25年10月	出張展示「えっ！授業の展覧会」/うらわ美術館
平成25年10月	第4回芸術士派遣事業活動報告「芸術士とこどもたち」展/高松市美術館
平成26年 3月	芸術士®商標登録
平成26年 5月	レッジョ・エミリア市視察訪問
平成26年 9月	公開ワークショップ・シンポジジウム「芸術士と語ろう」/聖徳大学
平成26年 9月	自転車おしてくれてありがとうプロジェクト/高松丸亀町商店街
平成26年10月	シンポジウム「ARTが生み出す子どものチカラ」/東京都美術館
平成26年12月	第5回芸術士派遣事業活動報告「3，704色こども」展/丸亀町レッツホール
平成27年 2月	講演会/島根県津和野町
平成27年 3月	キャリア教育プログラム/善通寺一高デザイン科
平成27年 6月	敬心学園シンポジウム/日本福祉教育専門学校
平成27年12月	第6回芸術士派遣事業活動報告「きょうなにするん」展/高松市中央図書館
平成28年 4月	島根県津和野町に芸術士®が配置される。
平成28年11月	ワークショップ・巡回展「高松市こども未来館オープンイベント」/たかまつミライエ
平成28年12月	第7回芸術士派遣事業活動報告「きょうなにするん」展/瓦町FLAG